

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 123	提案機関名 湘南農協 営農経済部
要望問題名 水稲基肥一発施用型の肥効の発生について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 水稲栽培において施肥の省力化を図るため、最近、基肥一発型肥料の利用が見られる。特に最近の夏は高温の気象が続き、キヌヒカリを中心に栽培している中で追肥の時期と一発型肥料の肥効のカーブと生育ステージのずれがあるように思える。 そこで、最近の気象条件に合う基肥一発型肥料の施肥量、肥効カーブ等を検討願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部野菜作物研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 消費者ニーズに応える高品質・安定生産技術の開発			
対応の内容等 夏の高温と肥料成分の溶出量の関係は明らかではありませんが、ご指摘のとおり基肥一発型肥料に含まれる緩効性肥料成分の溶出パターンと、イネの養分吸収パターンとにずれが生じている可能性が考えられます。そこで当所では、現在、JA全農かながわと協力し、作期が‘キヌヒカリ’とほぼ同じである‘はるみ’で、基肥一発型肥料「てまいらず」と「ナイスワン」の旧型と改良型を用いて、基肥一発型肥料の適切な施肥量等について検討しています。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			